

特色ある「学童保育」の取り組み

～SDGs・ものづくり教育を通じて～

1 はじめに

母の介護のためにUターンして、学童保育の仕事に就いた。学童保育とは、14時頃から19時まで保護者が仕事を終え迎えに来るまでの時間、児童を預かる施設である。一般に過ごし方は、室内で宿題をしたり、読書やDVD視聴、遊具での遊びをし、天気良ければ屋外で外遊びを行う。付加価値をつけて、英会話や珠算、書道教室を取り込んでいるところもある。

本学童では、標記の事を目的に、特色ある取り組みを行っている。

2 取り組み

主に土曜日、開所時間が長いので、基礎的な「ものづくり教育」を行っている。その中で廃品等も活用して、SDGsの「ものを大切に活用する」ことを啓発する取り組みをしている。

(別紙写真参照)

他の支援員の方も、華道、茶道、食育（調理して食べる）やゴーヤ等の栽培、折り紙等にも取り組まれている。本学童の取り組みは、他所にはないユニークな取り組みと自負している。

3 成果

比較的幼い時期からの、このような取り組みは、将来の有為な人材育成に寄与するものと信ずる。

子供たちの、目に見える変化を述べると、

- 1 手や身体を汚すことを、いとわなくなった。
- 2 物を処分する前に、「まだ何か利用できないか」について考えるようになった。
- 3 ハサミや糸鋸等の工具やノリやボンドを使用するからか、手先が器用になったように感じる。
- 4 基礎的な「ものづくり」や「物を大切に活用したり、不要な物を活用する」(SDGs)を学び、家庭や学校生活の中で、更に研ぎ澄まされていくと期待が持てる。

4 目標

我が国の「ものづくり教育」は、工業高校、高専、短大、ポリテク、専門学校、大学（院）等で

行われている。

世界でも評価の高い教育機関である。これに加えて早い時期から「ものづくりの基礎教育（体験）」や「SDG s」の啓発等の取り組みが、日本いや人類のための技術革新に少なからず好影響を与えるものとする。将来、有為な人材として活躍する人を育てることを目標としている。